

日本学術会議 科学者委員会
学術誌問題検討分科会（第1回）議事要旨

1. 日 時： 平成 24 年 1 月 17 日（火）10：00～11：30
2. 場 所： 日本学術会議 5－A（2）会議室
3. 出席者： 田口委員、矢野委員、嶋田委員、須田委員、北村委員、松岡委員、北里委員（欠席：小松委員、吉田委員、辻村委員、長野委員）
事務局：石原参事官、中島上席学術調査員 他
4. 配付資料：
 - 資料1 委員名簿
 - 資料2 学術誌問題検討分科会設置提案書
 - 資料3 科学者委員会運営要綱
 - 資料4 提言「学術誌問題の解決に向けて―「包括的学術誌コンソーシアム」の創設―（平成 22 年（2010 年）8 月 2 日）
5. 議 事：
 - （1）開会
事務局から開会が宣言され、委員長が決まるまでの間は、事務局が議事進行することが確認された。
 - （2）委員長等の選出
 - ・各委員から専門分野を中心に自己紹介が行われた。
 - ・事務局より、前期の活動内容について簡単な説明があった。前期は平成 22 年 8 月までの審議により提言を取りまとめ、その後は浅島委員長及び特任連携会員の永井委員、林委員等が中心となって提言実現のための活動を行ったこと、また、大学図書館コンソーシアムの発足や文科省での委員会設立など提言の実現例が紹介された。
 - ・役員については、まず前期の審議状況及び提言内容を把握した上で、今期の段取りを決めてから選任すべきではないかという意見があった。
 - ・次回は、前期の提言内容及びその後のフォローアップ活動に詳しい永井先生、林先生を参考人としてお招きしたいとの要望があったため、事務局からお願いすることとなった。
 - （3）今後の進め方について（検討課題等の主な意見）
 - ・学術誌問題は学問の分野によって考え方が異なるので、検討課題の整理が難しい。
 - ・インパクトファクターは非常に重要な要素となっている。特に若手の研究者がこれに振り回されることが多く、流行性の高い分野だけが伸びる結果となってしまう。
 - ・競争的資金により研究する体制となったことも問題を助長しているのではないか。
 - ・小さな学会では雑誌発行のための経費が負担となっている。
 - ・発信だけでなく、使う側からの問題点についても考える必要がある。

- ・戦前の古い論文でも必要な際に探し出せるようアーカイブの整理が大事である。
- ・インパクトファクター等個別の話題について議論するよりも、前期の活動によって作られた土台を基に学術誌問題の全体像を捉えてから、今期の検討課題について、その中から選ぶのか、または別なのか、個別具体策を考えるべきではないか。
- ・世話人がいないのであれば、前期と今期で継続性を保つためにも前期の委員の方に引き続きお願いしたほうがよいのではないか。特に委員長として審議の中心となった浅島先生にお願いしてはどうか。
- ・浅島先生の他に、前期はWGの取りまとめに玉尾先生が尽力されていた。まだ会員であれば、今期も所属してもらうよう事務局からお願いしてほしい。
→浅島先生、玉尾先生については今期も連携会員となっているため、分科会委員として所属いただけるか事務局から連絡することとなった。

6. その他：

役員の選出については次回に持ち越しとなった。また、次回は追加委員候補（浅島先生、玉尾先生）及び参考人（永井先生、林先生）に事務局から連絡をしたうえで、日程調整することとなった。